

2017春 カンボジアスタディーツアー

2月10日～2月16日

○日程

日付	内容
2/10(金)	午前：成田出発 午後：ベトナム・ホーチミン到着後、カンボジア国境へ 国境で出入国手続き 夕方：ゲストハウスへ 夕食後、シーライツ事業ブリーフィング
2/11(土)	午前：小学校訪問（ツアー参加者によるワークショップ） 午後：コミュニティセンター訪問（ピア・エデュケーターの活動視察、ツアー参加者によるワークショップ）
2/12(日)	午前：子どもクラブ訪問、家庭訪問 午後：陸路プノンベンへ、市場などで買い物
2/13(月)	午前：フレンズ・インターナショナルのチャイルドセーフ・センター訪問、トゥクトゥク運転手にインタビュー 午後：アフゼシップ・フェア・ファッション訪問、トゥールスレン博物館見学
2/14(火)	午前：専門家による人身売買に関するレクチャー 午後：陸路シェムリアップへ 夜：市内レストランにてアプサラダンスを見ながら夕食
2/15(水)	午前・午後：アンコールワットほか、遺跡見学 ※途中、昼食とショッピング シェムリアップからホーチミン経由で成田へ
2/16(木)	早朝：成田着 現地解散

このスタディーツアーは、特定非営利活動法人 国際子ども権利センター（略称：C-Rights/シーライツ）が年に一回、2～3月に開催しているものです。毎年本校の学生と教授の有志で参加していて、今年は本学から10名（学生9名、教員1名）が参加しました。他にも日本各地から参加者が集いました。



○参加者の活動報告第一弾！！

子ども学科2年 山口花奈

私はカンボジアスタディーツアーに参加して、子どもの権利について学ぶことができました。権利について今まで気にすることなく生活していましたが、私の行ったタナオコミュンという村の子どもたちは小学校の授業で権利について学んでいたりと、上級生の子どもたちが小さい子どもたちにわかりやすく説明したりする活動をしていました。



今でも性的搾取や人身売買、児童労働という問題が起きている中で、子どもたち自身が自分の身を守るために勉強や活動をしていて自分が当たり前で生活できていることに改めて感謝したいと感じました。今回のツアーに参加し現地の子どもたちと会えたことはとても良い経験になりました。



健康栄養学科2年 貝吹妃茄



今回のカンボジアスタディーツアーで一番印象に残っているのは、カンボジアの子ども達の教育について学んだことです。

ベトナムとの国境付近にあるタナオコミュン村の小学校を訪問した際、子ども達の授業に対する真剣さ、積極的な姿を見ることができました。自分が想像していたよりも、子ども達は勉強に熱心に取り組んでいて驚きました。しかしその反面、小学校に通う子ども達の兄弟は出稼ぎに行っていたり、高校には進学せずに働くといった話を多く聞きました。

カンボジアの子ども達は高校が遠くて行けなかったり、経済的な面で家族を支えるために早くから働いていたり、勉強がしたくてもできないという環境におかれています。日本では環境が整っているにも関わらず、学校を辞めてしまう人や、毎日学校でなんとなく授業を受けている人が多くいると思います。実際に私も大学生生活を何となく過ごしていました。しかし、カンボジアの教育の現状を見てからは、しっかり目標を立てて勉強ができる環境が整っていることに感謝しなければならないな、と思うようになりました。



途上国と先進国では生活環境や勉強に対する意識の差はあるかもしれませんが、「子どもの権利」というのは国際人権規約で世界共通の条約として定められています。そのため、どの国においても子どもはしっかり勉強し、親に守られるべきだ、と私は思います。

一週間という短い時間でしたが、「教育」や「子どもの権利」についてとても考えさせられた時間でした。